



インストレーションガイド
Strategic Performance Management (リリース
1.4)
Windows版

序文

本書は、Strategic Performance Management(リリース1.4)の導入方法について述べたものです。お使いのマシンにStrategic Performance Management(リリース1.4)を導入する場合には、必ず本書をお読みください。

2002年8月

株式会社SASインスティテュートジャパン

本書で解説するソフトウェアはライセンス契約のもとに提供されるものであり、同ソフトウェアはこの契約の条項にしたがってのみ、使用あるいは複写が許可されています。このため、御契約頂いたSASソフトウェアプロダクトを、契約書に記載されている以外のCPU上で使用された場合にトラブルが発生しても、当社は同ソフトウェアプロダクトに関する契約上の保障およびサポートを一切行ないません。

本書で使用されているシステム名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

目次

第1章	はじめに	1
1.1	Strategic Performance Managementの構成と用語の説明	1
1.2	System Requirements ウィザード	3
1.3	Strategic Performance Managementをインストールするにあたっての事前チェックリスト	3
1.4	Strategic Performance Managementで利用できるWebブラウザ	5
1.5	ヘルプシステム	5
第2章	Strategic Performance Managementのインストール	6
2.1	Strategic Performance Managementをインストールする前に	6
2.2	Strategic Performance Managementのインストール	7
2.3	System Requirements ウィザード	7
2.4	Strategic Performance Managementコンポーネントのインストール	9
2.5	Strategic Performance Managementのライセンス情報	11
2.6	Strategic Performance Management1.4の削除あるいは更新	11
第3章	UNIX上にナレッジベースをインストールする方法	12
3.1	SASシステムに対するHot Fix適用	12
第4章	Strategic Performance Managementの起動	12
第5章	テクニカルサポート	15
付録	インストール後に行うStrategic Performance Management履歴サーバーの設定	16
	アプリケーションサーバーのシステム必要条件	16
	履歴サーバーのインストール	16
	履歴サーバーWebアプリケーションの構成	16
	履歴サーバーWebアプリケーションの環境設定	17
	履歴サーバーを使用するためのマップの設定	18
	履歴データの移行	18

第1章 はじめに

1.1 Strategic Performance Managementの構成と用語の説明

この章では、Strategic Performance Managementをインストールするにあたって必要となる用語の説明、およびインストール作業の概要について説明します。

Strategic Performance Managementは以下コンポーネントで構成されています。

マップ

履歴サポート

コメントマネージャインターフェイス

Basic

Intraspect

Lotus Notes

Outlook

ナレッジベースツール

環境テンプレート

Webデータエントリ アプリケーション

マップコンポーネントは、Strategic Performance Management単体でスコアカードの設計及びWeb出力を行うためのプログラムです。

履歴サポートコンポーネントは、スコアカードの変更値を時系列で蓄積し、また復元するためのプログラムです。

コメントマネージャコンポーネントは、スコアカードのコメントを利用中のコメントマネージャに適した形式で保存するためのプログラムです。例えば、OutlookコメントマネージャインターフェイスはOutlookパブリックフォルダとしてスコアカードを保存します。

ナレッジベースツールは以下のソフトウェアで構成されており、データウェアハウスよりスコアカード生成のためのデータを取り込みます。

LSA Wizard

LSA Administrator

Warehouse Setup Wizard

Export File Loader

環境テンプレートはStrategic Performance Managementで利用できるサンプルテンプレートです。

WebデータエントリアプリケーションはWebベースの情報入力システムです。インストール及び設定に関する詳しい情報はWebデータエントリインストールガイド・環境設定ガイドを参照してください。

Strategic Performance Managementをインストールする前にSystem Requirement Wizardを実行し、Strategic Performance Managementの実行環境を満たしているかを確認してください。

Windows NT あるいはWindows 2000プラットフォームに対してStrategic Performance Managementをインストールする場合、必ずAdministrator権限を持つユーザーでインストールを行ってください。

マップディレクトリ

Strategic Performance Management マップコンポーネントのインストール先フォルダを指定します。Strategic Performance Management(あるいはStrategic Vision)の前リリースがインストールされている場合、インストール先として別のフォルダを指定してください。

デフォルトのインストール先は以下の通りです。

C:\Program Files\SAS\Strategic Performance Management\1.4

このマニュアルでは、マップディレクトリのことを以後、MAPと記述します。

コメントマネージャディレクトリ

インストールしたいコメントマネージャの種類のみだけフォルダを指定します。デフォルト値がありませんので、必ず任意のフォルダを指定してください。このフォルダはWebサーバーを通じてhttp:で始まるURLスタイルで参照できる必要があります。事前にこのフォルダに対して、Webサーバー上でエイリアス定義を完了しておくことを推奨します。Webサーバーがネットワーク上の別マシンの場合、ネットワークドライブの割り当てを使ってインストール先フォルダを共有しておく必要があります。

このマニュアルでは、コメントマネージャの各ディレクトリを以後、以下の通り記述します。

BASIC COMMENT MANAGER、INTRASPECT COMMENT MANAGER、

LOTUS NOTES COMMENT MANAGER、OUTLOOK COMMENT MANAGER

ナレッジベースディレクトリ

Strategic Performance Management ナレッジベースツールのインストール先フォルダを指定します。デフォルトのインストール先は<マップインストール先フォルダ>\Knowledge Baseとなりま

す。

C:\Program Files\SAS\Strategic Performance Management\1.4\Knowledge Base

このマニュアルでは、ナレッジベースディレクトリを以後、KNOWLEDGE BASEと記述します。ナレッジベースに関する詳細な説明は、マップのオンラインヘルプを参照してください。

履歴サポートディレクトリ

Strategic Performance Management 履歴サポートのインストール先フォルダを指定します。デフォルト値がありませんので、必ず任意のフォルダを指定してください。このフォルダはJavaベースのアプリケーションサーバー上に作成してください。インストール済みの他のWebアプリケーションと同一のフォルダを指定していただくことをお奨めします。アプリケーションサーバーがネットワーク上の別マシンの場合、ネットワーク ドライブの割り当てを使ってインストール先フォルダを共有しておく必要があります。

このマニュアルでは、履歴サポートディレクトリを以後、HISTORY SUPPORTと記述します。時系列データ機能に関する詳細な説明は、付録「インストール後に行うStrategic Performance Management履歴サーバーの設定」を参照してください。

WEBデータエントリディレクトリ

マップコンポーネントをインストールすると自動的にインストールされるWebデータエントリクライアントの、インストール先フォルダを指定します。このプログラムはStrategic Performance Management上でマップとWebデータエントリ間の通信を行います。Webデータエントリを利用するためのマップ環境構築及びWebユーザーによって入力された値をマップに取り込むために、このプログラムの実行が必須となります。デフォルトのインストール先は以下の通りになります。

<Map インストール先>\MapWDEConnector

上記のフォルダ名は変更をした場合、プログラムがうまく動かない場合があります。変更せずに使用してください。詳細はこのフォルダにあるreadme.txtを参照してください。

1.2 System Requirements ウィザード

System Requirementsウィザードを実行することにより、Strategic Performance Managementをインストールする上で必要最低限の環境が準備できているかどうかを判定できます。System Requirementsウィザードは場合によって、オペレーションシステムのシステムコンポーネントの一部を更新します。どのファイルを更新するかについては、その環境に依存します。

1.3 Strategic Performance Managementをインストールするにあたっての事前チェックリスト

インストールを始める前に、以下のチェックリストの項目を満たしているかどうかチェックしてくださ

い。

製品パッケージの内容物をご確認ください。

インストール先のマシンがシステム必要条件を満たしていることを確認してください。

インストール先のWindowsのバージョンを確認してください。Windows NT (4.0以降)、Windows 2000、Windows 98、Windows Me、Windows XPである必要があります。サービスパックの適用有無についても確認を行ってください。

使用するコメントマネージャインターフェイスを決定してください。インストール先フォルダとして、同一マシンあるいは同一ネットワーク内の別マシンのWebサーバーにあるフォルダを指定する必要があります。またそのディレクトリに対しては「書き込み権限」が必要です。前リリースのStrategic Performance Managementがインストールされている場合、BASIC COMMENT MANAGERディレクトリとして別のフォルダを指定し、既存のnotesMeta.xmlファイルが変更されないようにしてください。

履歴サポートのインストール先として、同一マシンあるいは同一ネットワーク内の別マシンのWebサーバー上にあるどのアプリケーションフォルダを使用するか決定してください。そのディレクトリに対しては「書き込み権限」が必要です。

コメントマネージャの環境ファイル(XML形式)を編集するためには、XMLエディタが必要です。テキストエディタの利用もできますが、Microsoft XML Notepadを使っていただくこともできます。またXML Spyのようなサードパーティ製のXMLエディタもお使いいただけます。Windowsのノートパッドも利用いただけますが、推奨いたしません。

SASシステム リリース8.2をインストールしてください(システム必要条件に記載されている必須プロダクトを選択してください)。インストール方法はお手持ちのSASシステムインストールガイドを参照してください。インストール後、SASシステムからStrategic Performance Managementを利用するためのSETINITを適用していただく必要があります。この作業はナレッジベースツールのインストールには必須となります。

ナレッジベースツールを利用するために、SASシステム リリース8.2に対して以下の修正ファイル(HotFix)の適用が必要となります。

82WH02 (Warehouse Administrator用のHotFixが必要となります)

HotFixは以下のページより入手することができます。

<http://ftp.sas.com/techsup/download/hotfix/hotfix.html>

その他お使いいただく機能によって別のHotFixが必要となる場合がございます。詳しくはテクニカルサポートまでお問い合わせください。

1.4 Strategic Performance Managementで利用できるWebブラウザ

Strategic Performance Managementの最新機能を利用していただくためにはInternet Explorer 5.5あるいはそれ以降が必須です。

1.5 ヘルプシステム

Strategic Performance ManagementのヘルプはAdobe ポータブルドキュメント形式(PDF)のファイルで提供されております。参照にはAdobe Acrobat Reader 4.0以降が必要です。

<http://www.adobe.com/products/acrobat/main.html>より最新版を入手、あるいはインストールCD内の「doc」フォルダより「ar505enu.exe」をダブルクリックして、インストールしてください。

第2章 Strategic Performance Managementのインストール

この章ではStrategic Performance Management Windows版のインストール概要について紹介します。またインストールをする上で決定しておかなければいけないこと、インストールの実例についても併せて説明いたします。

2.1 Strategic Performance Managementをインストールする前に

Strategic Performance Managementをインストールする前にインストール先のドライブに十分な空き容量があることを確認しておいてください。インストールに際して必要なディスク空き容量についてはシステム必要条件をご参照ください。なお実際に使用するディスク容量は、フォーマット形式、ブロッキングファクター、圧縮ドライブの有無によって異なる場合があります。

1. インストールするコンポーネントを決定してください。更にコンポーネントに応じてインストール先のフォルダを決定する必要があります。(マップ、ナレッジベース、履歴サポート、コメントマネージャ(BASIC、INTRASPECT、LOTUS NOTES、OUTLOOK)のインストール先フォルダ)
2. Strategic Performance Managementを、Windows NT、Windows 2000もしくはWindows XPにインストールする場合、管理者(Administrator)権限のユーザーで行うことが必要です。System RequirementsウィザードやStrategic Performance起動時に以下のメッセージが表示される場合、管理者権限のユーザーでインストール作業が行われなかった可能性があります。

Error installing iKernel.exe

3. Strategic Performance Managementのセットアッププログラムはインストール開始時にMicrosoft社のシステムコンポーネントが更新されているかどうかをチェックします。もしStrategic Performance Managementを動かす上での最低限の条件に合致していない場合、インストールを行う前に該当のコンポーネントを更新するため、System Requirements ウィザードの実行を促します。インストール前にSystem Requirements ウィザードを実行してください。

2.2 Strategic Performance Managementのインストール

1. 他の全てのWindowsアプリケーションを終了してください。
2. Windows98にインストールする場合、ネットワークドライブを3つ以上割り当てている状態で行わないことを推奨します。
3. セットアップ用CD-ROMを挿入してください。Strategic Performance Managementのセットアップメニューが起動します。もし起動しない場合、「マイコンピュータ」「CDROM」アイコンをクリックして、setup.exeをダブルクリックすればセットアップメニューが起動します。

あるいは直接下記のプログラムを実行しても構いません。

<CD-ROMドライブのドライブ名>:\%setup

<CD-ROMドライブのドライブ名>はStrategic Performance ManagementセットアップCDが挿入されているドライブになります。

4. Strategic Performance Managementのセットアッププログラムはインストール開始時にMicrosoft社のシステムコンポーネントが更新されているかどうかをチェックします。もしStrategic Performance Managementを動かす上での最低限の条件に合致していない場合、インストールを行う前に該当のコンポーネントを更新するため、System Requirements ウィザードの実行を促します。をクリックしてStrategic Performance Managementのインストールを終了し、次節のSystem Requirements ウィザードの説明をお読みください。

Strategic Performance Managementセットアッププログラムは、をクリックすればいつでも終了させることができます。その場合、インストール中の全てのファイルは削除されます。

Strategic Performance Management(あるいはStrategic Vision)がインストール済みの環境にStrategic Performance Managementをインストールし、途中で中断した場合、環境がおかしくなる可能性があります。

2.3 System Requirements ウィザード

System Requirements ウィザードはオペレーティングシステム(OS)の一部であるシステムコンポーネントを更新する場合があります。これらのコンポーネントを推奨バージョンまで更新しない場合、Strategic Performance Managementのインストールは完了しません。

オペレーティングシステムが使用中のシステムコンポーネントを更新した場合、それらを有効にするために再起動が必要になります。

追加あるいは更新されるコンポーネントは以下の通りです。

Microsoft Active Directory Service Interface

Microsoft Data Access Components

Microsoft HTML Help Control

Microsoft Runtime Components

Microsoft XML Parser
Windows Scripting Host

System Requirements ウィザードはオペレーティングシステムを再起動する際に、ウイルスチェックプログラムを含む全プログラムを終了させます。再起動の回数については追加更新されるシステムコンポーネント数によって異なります。

System Requirements ウィザードの起動

1. セットアップ用CD-ROMを挿入してください。オートプレイが有効になっている場合、Strategic Performance Managementのセットアップメニューが起動します。もし起動しない場合、「マイコンピュータ」「CDROM」アイコンをクリックして、setup.exeをダブルクリックすればセットアップメニューが起動します。

<CD-ROMドライブのドライブ名>:%setup

<CD-ROMドライブのドライブ名>はStrategic Performance ManagementセットアップCDが挿入されているドライブになります。

2. System requirements ウィザードを一覧より選択してください。

または、Windowsの[スタート]メニューより「ファイル名を指定して実行」を選択し、以下のコマンドを入力してください。

<CD-ROMドライブのドライブ名>:%SRW%setup

<CD-ROMドライブのドライブ名>はStrategic Performance ManagementセットアップCDが挿入されているドライブになります。

最低限のシステム必要条件を更新

1. Welcome画面の説明をよく読み、**Next**を選択してください。
2. Internet Explorer5.5がインストールされていない場合、稼動における必要条件を満たしていないことを表示し、System Requirements ウィザードが終了します。Internet Explorer5.5をインストール後、次のステップに進むことができます。
3. System Requirements ウィザードによって更新される全コンポーネントの一覧が表示されます。一覧を確認後、**Next**をクリックしてください。

最低限のシステム必要条件を満たしている場合、更新が必要なコンポーネントがない旨を表示します。

4. ステップ 3.で一覧として表示したシステムコンポーネントの更新を開始します。更新されたコンポーネントによっては再起動の必要があります。再起動メッセージを確認してください。

再起動を選択した場合、System Requirements ウィザードはログオン後に自動的に起動します。

再起動を選択しなかった場合、System Requirements ウィザードは終了します。再起動で

きる状態になった時点で、System Requirements ウィザードを起動してください。

5. 全てのシステムコンポーネントの更新が終了した段階で、Strategic Performance Managementの実行に必要な最低限の環境が整ったことを示すメッセージが表示されます。

2.4 Strategic Performance Managementコンポーネントのインストール

ナレッジベースツールの環境設定時には、リリース8.2以降のBase SAS及びSAS/Warehouse Administratorがインストールされている必要があります(インストール方法についてはお手持ちのSASシステムのインストレーションガイドを参照してください)。更にSASシステムからStrategic Performance Managementを利用できるようにするため、SETINITの適用が必要です。

どの画面でも「戻る」ボタンで前の画面に戻ることができます。次に説明するのは、Strategic Performance Managementの一般的なインストール例です。

1. 「ようこそ」の画面で「次へ」をクリックしてください。
2. 「製品使用許諾契約」をよく読んでいただき、同意していただける場合のみ、「はい」をクリックしてください。
3. 「インストール先の選択」画面が表示されます。デフォルトのインストール先にするか、「参照」ボタンをクリックし、別のフォルダを選択してください。インストール先のディスクには十分な空き容量があることを確認してください。必要な空き容量に関してはシステム必要条件を参照してください。フォルダの選択が終わりましたら「次へ」をクリックしてください。
4. 「コンポーネントの選択」画面が表示されます。インストールしたいStrategic Performance Managementコンポーネントのみを選択してください。必要なコンポーネントが選択された状態で「次へ」をクリックしてください。
5. 選択したコメントマネージャインターフェイスのインストール先フォルダを指定します。使用したいコメントマネージャインターフェイス毎にWebサーバーよりアクセス可能なフォルダを指定してください。指定が終わりましたら「次へ」をクリックしてください。

Intraspectコメントマネージャインターフェイスを選択した場合、Intraspectのインストールフォルダを入力するメッセージが表示されます。Intraspectコメントマネージャファイルはc:\intraspect\wwwなどのIntraspectアプリケーション用wwwサブディレクトリにインストールされず、Strategic Performance Management1.4のIntraspectコメントマネージャをインストールすると、既にインストールしてあるStrategic Performance Management(あるいはStrategic Vision)用のファイルを上書きします。wwwフォルダ内にあるesc*.shtmlのIntraspectコメントマネージャ用ファイルを別フォルダに退避してください。

6. ナレッジベースツールを選択している場合、「ナレッジベース保存先の選択」画面が表示されます。デフォルトのインストール先にするか、「参照」ボタンをクリックし、別のフォルダを選択して

ださい。フォルダの選択が終わりましたらをクリックしてください。

UNIX上にナレッジベースをインストールする場合、3章を参照してください。

7. 履歴サポートコンポーネントを選択している場合、「履歴コンポーネントの保存場所の指定」画面が表示されます。Webサーバーよりアクセス可能なフォルダを指定してください。指定が終わりましたらをクリックしてください。
8. マップあるいはナレッジベースツールを選択している場合、「プログラムフォルダの選択」画面が表示されます。新しいフォルダ名を指定するかデフォルトの名前のままでをクリックしてください。
9. 「現在の設定」画面が表示されます。選択したものが正しく表示されているか確認してください。もし正しくない箇所があったら、ボタンを使って選択画面まで戻り、修正を行ってください。問題がなければ、をクリックしてください。ファイルのコピーが開始されます。

10. ナレッジベースツールを選択している場合、Strategic Performance Managementはナレッジベースの環境を構築するためのWarehouseセットアップウィザードのアイコンをデスクトップ上に作成します。

インストールプログラムはSASプログラムsetup.sasをインストール中に実行します。ナレッジベース用の環境を構築している間、BATCH SASのダイアログが表示されますので、完了するまでこのダイアログを終了させずにお待ちください。プログラムが正常終了すると、次のダイアログボックスが表示されます。

ウェアハウスセットアップウィザードのインストールに成功しました

をクリックしてメッセージボックスを閉じてください。このダイアログボックスが表れない場合、KNOWLEDGE BASEディレクトリにあるsetup.logにERROR:やWARNING:で始まるメッセージがないか確認してください。問題を解決した後、再度KNOWLEDGE BASEディレクトリ内のsetup.sasを実行してください。

11. SAS/GRAPH ActiveX コントロールのインストールを選択している場合、インストール中のメッセージが表示されます。SAS/GRAPH ActiveX コントロールのインストールプログラムは、Strategic Performance ManagementセットアップCDの次のファイルです。

bundles¥sasgraph.exe

12. 「InstallShield Wizardの完了」画面ではをクリックしてください。

Strategic Performance Management 起動時に「Strategic Performance Managementは曜日、月、日、年 at 時:分 東京(標準時)に失効します」というエラーメッセージが表示された場合、MAPディレクトリに有効なStrategic Performance Management用setinitファイルをコピーしてください。詳細はStrategic Performance Managementのライセンス情報を参照してください。

2.5 Strategic Performance Managementのライセンス情報

Strategic Performance Managementの利用は年次契約となります。Strategic Performance Managementを実行するためにはSAS Instituteより発行されるAuthorization codeが必要になります。Authorization codeはSETINIT.SASファイルに記述されています。インストール時にSETINIT.SASファイルがインストール先フォルダにコピーされます。

コピーされたSETINIT.SASファイルが期限切れの場合、有効な期限を持つSETINIT.SASファイルをインストール先フォルダにコピーする必要があります。

新しいSETINIT.SASファイルを入手したら、MAPディレクトリにそのファイルをコピーしてください。Strategic Performance Management用のSETINIT.SASはAuthorization code中にStrategic Performance Management(あるいはStrategic Vision)のプロダクト情報を必ず含んでいます。

2.6 Strategic Performance Management1.4の削除あるいは更新

Strategic Performance Management1.4を削除する場合、2つの方法があります。

1. [スタート]メニューの[設定]よりコントロールパネルを選択してください。アプリケーションの追加と削除よりStrategic Performance Management 1.4を選択してください。**変更/削除**をクリックし、次の画面で**削除**を選択してください。
2. Strategic Performance Managementのセットアッププログラムを起動してください。「ようこそ」の画面に変更、修正、削除の3つの項目が並びます。**変更**はStrategic Performance Managementの各コンポーネント(除くSAS/GRAPH ActiveX コントロール)に対して追加・削除が行えます。**修正**はStrategic Performance Managementのインストールで壊れたファイルを再インストールします。**削除**はStrategic Performance Managementを削除します。

別マシン上のWebサーバーに対してコメントマネージャインターフェイスをインストールする際、ネットワークドライブとして割り当てているドライブ名が異なる場合、コメントマネージャファイルの削除は行いません。

環境テンプレートは読み取り専用でインストールされます。「次回からこのメッセージを表示しない。」のチェックボックスをチェックして、はい**を選択してください。**

第3章 UNIX上にナレッジベースをインストールする方法

ナレッジベースツールは全ETL(Extract、Transform、Load)プロセスの自動化とスコアカードへのデータ受け渡しを行うという、情報の収集・配布機能を持ちます。

UNIX上のナレッジベースをインストールするためには、ナレッジベースツールをインストールしようとしているディレクトリに次の2ファイルをコピーしてください。

```
SPMinstall.sh
```

```
UNIX_SPM1.4.tar
```

ナレッジベースツールを/usr/local/sas/KnowledgebaseInstallにインストールする例を紹介します。事前に/usr/local/sas/KnowledgebaseInstallに2ファイルをコピーしておいてください。

1. ナレッジベースツールのインストール先ディレクトリに移動します。

```
$ cd /usr/local/sas/KnowledgeInstall
```

2. シェルスクリプトを実行します。

```
$ ./SPMinstall.sh
```

インストールスクリプトは適切なSAS起動コマンドを検索します。検索した起動コマンドが正しいかどうかの確認メッセージが表示されます。検索結果が正しくない場合、次のステップに従ってください。

インストールスクリプトが見つけたSAS起動コマンドが正しい場合、「Y」と入力すれば、後は自動的に実行されます。

1. SASプログラムが存在しているディレクトリに移動します。

```
$ cd /usr/local/sas/KnowledgebaseInstall/SPM1.4/KB
```

2. cimport_all.sasプログラムを実行します。

```
$ sas cimport_all.sas
```

3. setup.sasプログラムを実行します。

```
$ sas setup.sas
```

cimport_all.sasは必ずsetup.sasの前に実行してください。

3.1 SASシステムに対するHot Fix適用

Windowsと同様、ナレッジベースツールはBase SASおよびSAS/Warehouse Administratorリリース8.2用のHot Fixを適用する必要があります。UNIXプラットフォーム用の82WH02 Hot Fixを入手し、適用を行ってください。

第4章 Strategic Performance Managementの起動

正しくインストールが完了すれば、次の方法でStrategic Performance Managementを起動する

ことができます。

[スタート]メニュー プログラムより、「Strategic Performance Management 1.4マップ」を選択してください。もしインストール中にプログラムファイルのフォルダを変更した場合、変更した箇所より「Strategic Performance Management 1.4マップ」のラベルを選択してください。マップのフォルダ中にあるSETINITと異なるライセンスで起動したい場合、次の様に-setinitオプションを使用することができます。

```
"C:\program Files\SAS\Strategic Performance Management\1.4\Map.exe  
-setinit c:\setinit.sas"
```

サンプルで提供されている環境を利用して、すぐにStrategic Performance Managementをお試しいただくことができます。サンプルのスコアカードはMAP\Sample Scorecards にありますので、コピーしてお使いください。但しこのスコアカードは英語版となります。

既にStrategic Vision 1.3をお使いいただいている場合、以下のステップに従って環境を移行していただくことができます。

1. まずStrategic Vision 1.3で作成した環境は全てバックアップをしていただくことを強く推奨します。

一度Strategic Performance Management 1.4に移行すると、1.3でお試しいただくことはできなくなります。

2. Strategic Vision 1.3で使用していたenvironments.xmlファイルをStrategic Performance Management 1.4のインストール先フォルダにコピーしてください。
3. マップを起動すれば、以前のリリースのマップ環境が利用可能になります。

Strategic Performance Managementの起動に関する詳細な情報は、オンラインヘルプを参照してください。Strategic Performance Managementがインストールされているディレクトリにあるsvguide.pdfあるいはcompass.pdfをダブルクリックすればヘルプが起動します。Strategic Performance Management起動中であれば、以下のいずれかの手順でオンラインヘルプを参照できます。

ヘルプのプルダウンメニューよりヘルプトピックを選択してください

F1キーを押してください

マップツールバーの「？」をクリックしてください

Strategic Performance Management ユーザーガイドを含む、Strategic Performance Managementの最新のドキュメントは以下のURLで公開しております。

<http://www.sas.com/service/library/onlinedoc/StrategicPerformanceManagement>

第5章 テクニカルサポート

SASインスティテュートジャパンでは、SASコンサルタントからの技術的な質問について**FAX、電子メール**でのテクニカルサポートを提供しています。

その他、World Wide WebによるFAQ(Frequently Asked Questions)などの技術情報や修正モジュールの提供も行っています。

SASシステムに関するサポートは、SASインスティテュートジャパンと各サイトのSASコンサルタントが共同で行います。SASインスティテュートジャパンはソフトウェアのメンテナンスを担当し、各サイトのSASコンサルタントは直接ユーザーサポートを提供します。**SASコンサルタントが解決できないような問題に関しては、SASコンサルタント自身がSASインスティテュートジャパンのテクニカルサポートと連絡をとります。**できるかぎり効率のよいサービスを行うために、SASコンサルタントからご連絡ください。

テクニカルサポートでは、SASシステムでのユーザーエラー、システムの互換性上の問題、SASステートメントの構文に関する質問、プロシジャとその出力などに関して、サポートを提供します。ただし、**特定目的用アプリケーション、ユーザープログラムの作成、新規ユーザーの教育、手法一般についての質問に関してはテクニカルサポートの範囲外となります。**これらのご相談につきましては弊社担当営業へご連絡ください。(代表) 03-3533-3760

テクニカルサポート連絡先

FAX: 03-3533-3781 TEL: 03-3533-3877

電子メール: support@jpn.sas.com

(電子メールでご質問をいただく場合、決まった書式があります。最初にSubjectを**help**として、お送りください。)

World Wide Web

<http://www.sas.com/offices/asiapacific/japan/service/index.html>

付録: インストール後に行うStrategic Performance Management履歴サーバーの設定

履歴サーバーはマップより出力されたCompassを使って時系列データを表示させる際、動的にページを生成するWebアプリケーションです。

アプリケーションサーバーのシステム必要条件

履歴サーバーとしてStrategic Performance Managementを導入する前に、システム必要条件に記述する条件を満たした環境であるかどうか確認してください。基本的に、アプリケーションサーバーにはJava Runtime Environment 1.2.2及びそれ以降(JRE 1.3.0_01推奨)で稼動するServlet 2.2/JSP 1.1に対応するサーブレットエンジンが必要となります。アプリケーションサーバーはServletを呼び出すJavaプログラムを実行するためのJavaアプリケーションとなります。アプリケーションサーバーはWebサーバーと連携、あるいは単独で稼動させることができます。Webサーバー上では履歴データの参照権限を設定しない限り、履歴サーバーを稼動させることができません。

履歴サーバーのインストール

Strategic Performance Management の履歴サーバーはサンマイクロシステムズのJava Servlet API 2.2に準拠したJava Web アプリケーションです。Strategic Performance Management1.4のインストールプログラムはWARファイル(Webアーカイブファイル)、SVHistory.warをHISTORY SUPPORTディレクトリとして設定したディレクトリにコピーします。次節以降でStrategic Performance Management 履歴サーバーをアプリケーションサーバー上でどのように設定するかについて説明致します。アプリケーションサーバーのインストール及び設定方法についてはこのマニュアルでは解説しませんので、ご使用中のアプリケーションサーバーのマニュアル等を参照してください。またStrategic Performance Management 履歴サーバーをインストール前にアプリケーションサーバーの設定が正しく行われているかを確認していただくことをお奨めします。

履歴サーバーWebアプリケーションの構成

SVHistory.warファイルは履歴サーバーアプリケーションとして必要な全てのファイルを含んでいます。アプリケーションサーバーは開始時にwebアーカイブファイルを自動的に解凍します。解凍についてはjarユーティリティやzipファイルのユーティリティも使用できます。SVHistory.warファイルをwebapps¥SVHistoryフォルダを解凍先として指定した場合、次のようなディレクトリ構成となります。

¥webapps

¥SVHistory

¥includes

¥META-INF

¥WEB-INF

¥classes

¥lib

履歴サーバーWebアプリケーションの環境設定

1. アプリケーションサーバー上に履歴データを保存するためのフォルダを作成してください。例えば「c:¥svhist_data」「/usr/local/svhist_data」などです。既に Strategic Performance Management (Strategic Vision)1.3で設定をしている場合、このステップは無視して構いません。
2. 履歴サーバーをインストール後、環境ファイルを編集していただく必要があります。基本環境ファイル、web.xmlは¥SVHistory¥WEB-INFフォルダにあります。data_path変数の値を履歴データが保存されるフォルダのルートディレクトリに変更する必要があります。デフォルト値はc:¥svhist_dataです。web.xmlの以下のセクションを探し、1.で作成したフォルダパスに置き換えてください。

```
<!-- Edit <param-value> to specify the root for the history server's data pool --><context-param>  
    <param-name>data_path</param-name>  
    <param-value>c:¥svhist_data</param-value>  
</context-param>
```

1.4では2つの新しいオプション値が追加されています。デフォルト値が以下の通りです。

```
<context-param>  
    <param-name>graph_view</param-name>  
    <param-value>choose</param-value>  
</context-param>  
<context-param>  
    <param-name>applet_threshold</param-name>  
    <param-value>20</param-value>  
</context-param>
```

履歴グラフで使用するコンポーネント(activexあるいはapplet)を指定したい場合、graph_view変数を以下の通り設定してください。

applet: グラフ使用時にJavaアプレットのみ使用します。

activex: グラフ使用時にocxのみ使用します。

choose: (デフォルト)対話的にユーザーが使用コンポーネントを切り替えられます。アプレットコンポーネントを使用して膨大なデータ数を読み込み、表示する場合、かなり

の時間がかかってしまう場合があります。アプレット使用時には、処理データ数が `applet_threshold` に設定された値を超えた場合、警告メッセージが表示されます。これにより利用者はアプレットを無効にすることができます。実績値あるいは期待値に応じてこのしきい値を増やすか減らすかを決定してください。

3. 環境設定が終了したら、アプリケーションサーバーを再起動してください。稼働中のアプリケーションサーバーのポート番号を確認しておく必要があります。このポート番号は次節で使用します。
4. 履歴サーバーが正しく設定されているかを確認するため、クライアントマシンでWebブラウザを起動し、履歴サーバーのURLを入力してください。

<http://サーバー名:ポート番号/SVHistory/histapp>

サーバー名はサイト内のサーバー名あるいはドメイン名です。

ポート番号はアプリケーションサーバーで設定したポート番号です。

履歴サーバーを使用するためのマップの設定

Strategic Performance Managementのマップコンポーネントを開き、以下の箇所を設定します。

テンプレート セットアップ Webページの作成 コンパス履歴サーブレットのURL

テンプレート セットアップ Webページの作成 マップ履歴サーブレットのURL

両項目に前節のステップ4で確認時に使用した履歴サーバーのURLを入力します。

以上の作業で履歴サーバーを使用するための環境が整いました。マップコンポーネントは値を変更する度に変更点を時系列データとして蓄積し、Webページを出力するとHTTPプロトコルを使って履歴サーバーへその変更点を出力します。データは動的に変更を加えながら、Compass上参照することができます。

注意: マップでのWebページ出力時及びCompassからの履歴データ参照時には、常にアプリケーションサーバーが稼働している必要があります。

履歴データの移行

Strategic Vision 1.3からStrategic Performance Management 1.4への移行を行う場合、特にデータの移行作業を行う必要はありません。

SAS Strategic Performance Management リリース1.4 Windows版 インストレーションガイド

2002年 8月13日 初版第1刷発行

発行元 株式会社SASインスティテュートジャパン

〒104-0054 東京都中央区勝どき1-13-1 イヌイビル・カチドキ8F

電話 03(3533)3760

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SASテクニカルサポート

TEL: 03 (3533) 3877

FAX: 03 (3533) 3781